

行政事業レビュー(公開プロセス)6月15日(月)

【情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業】に係る外部有識者の質問事項への回答について

質問①

参考資料p8に都道府県カバー率があるが、実際の大学の数・専攻の数のカバー率は。

回答①

情報系の修士課程をもつ大学数は122大学(237専攻)で、本事業に参画している大学数は72大学(79専攻)なので、カバー率は大学数ベースで59%、専攻数ベースで33%である。

質問②

参考資料p8に修了者数が記載されているが、同じ情報系の大学院の学生数に対するカバー率は、26年度507名が全体にとってどれくらいなのか。

回答②

平成26年度の情報系大学院の修士課程の学生数は全体(2年間)で9,519人なので、1学年4,760人とした場合、本事業の修了者507人の割合は、10.7%である。(507人÷4760人×100=10.7%)

質問③

参考資料p7下段アウトカム②の図について、元々スキルや理解を持っていた方と持っていない方の割合はどれくらいか。

回答③

本事業に参画する教員計307名に対するアンケート調査(回答者数:287人(回収率93%))の結果、PBLを自ら実施するスキル等をもっていた人は126名(44%)、PBLを自ら実施するスキル等をもっていなかった人は161名(56%)だった。

質問④

PBLを自ら実施するスキル等をもっていなかった人がどう変わったのか。

回答④

本事業参画前に、PBLを自ら実施するスキル等をもっていなかった人161名について、本事業に参画後にどう変わったのかを示したのが、参考資料P7の下の図である。

質問⑤

修了学生のうち起業した者の数は。

回答⑤

本事業の修了者(H25:352名、H26:507名)のうち、起業をした者の数はH25年度修了生1名、H26年度修了生1名の計2名である。